

パートナーシップで進める“小さな希望”創出育成事業(青森県大鰐町)

財政破綻寸前の大鰐町において、地域で頑張る住民団体、NPOが連携し、大鰐温泉もやしのプレミアム化、地域交流センター「鰐come」の活性化、首都圏の大鰐出身者を中心とする大鰐応援ファンクラブの立ち上げ等、地域全体が目標と希望を持って協働・連携し、行政に頼り切らないパートナーシップ型地域経営を推進する。



希少価値の高い
大鰐温泉もやし



大鰐町地域交流センター
鰐come(わにかむ)

平成20年度の主な取組

- ① 大鰐温泉もやしの首都圏への売り込み、鰐comeを拠点とした農商工連携・観光振興策の実施。
- ② 首都圏を中心に応援ファンクラブの立ち上げ、修学旅行誘致に向けた体験プログラム開発。
- ③ 住民主導によるコミュニティバスやオンデマンドタクシーなどの地域公共交通の再構築に向けた利用実態の把握・分析と実証実験の実施。

平成21年度以降の展開

観光振興、産業振興、地域公共交通の再構築を進め、「ネットワークの構築 → 事業実施による雇用・人口の増加 → 地域住民の満足度向上」という好循環を確立し、「自ら稼げる地域」、「ローコストでの公共サービスの提供」、「パートナーシップ型地域経営の推進」を実現する。

白神ブランド化と首都圏商店街活性化をブリッジするプロジェクト

(青森県弘前市・五所川原市・つがる市・平川市・大鰐町・西津軽・中津軽・北津軽と大館市・能代市・北秋田市・八峰町・藤里町・三種町)

首都圏の商店主が白神の生産地を訪れ製品の語り部となり、白神側は首都圏のニーズにあった製品づくりに努める。白神山地周辺地域と首都圏商店街が双方を補い合うことで、白神の農産物ブランド化と首都圏商店街活性化の両立を図る。



白神山地地域

首都圏商店街



白神・ツーリズム
りんご農家体験



首都圏側において連携する
ハッピーロード大山商店街

平成20年度の主な取組

- ① 首都圏商店街店主が白神を訪れ、白神製品の語り部として活かすとともに、産地側においてもワークショップ等を通じて白神製品のブランド化・売れる製品づくりを検討。
- ② 白神山地側と首都圏商店街の双方向の交流の活性化のため、グリーンツーリズムや首都圏商店街における白神産品を扱った販促活動等を実施。

平成21年度以降の展開

連携先の首都圏商店街の拡大、秋田県側も含めた白神全域にわたる参加者の拡大等、双方向のブリッジ機能の拡充により、首都圏における白神ブランド品の地位確立、相互繁栄スタイルの定着化を実現する。

盛岡土産土法(どさんどほう)プロジェクト

～郷土の財産を活かした新しい価値の創造～(岩手県盛岡市(中心市街地エリア))

盛岡市内中心部の遊休不動産において、郷土の農産物を郷土の方法で加工したものを扱う育児世代向け「カフェ」の実証実験を実施、まちなかの課題と周辺農村部の課題を同時に解決する新たなエリアマーケティングにチャレンジ、不動産オーナーとともに遊休不動産活用方策を模索する。



盛岡市内中心部の
遊休不動産



不動産オーナーを対象とした
ワークショップのイメージ

平成20年度の主な取組

- ① 遊休不動産にて周辺農家と連携し、育児世代を誘致して、地元農産物等を郷土の手法で加工したものを販売する「育児カフェ」の実証実験を実施。
- ② 不動産オーナーを中心として、まちなかの遊休不動産と広域との経済的な連携を軸に、広域エリア再生のためのヴィジョンとシナリオづくりのためのワークショップを開催。

平成21年度以降の展開

遊休不動産オーナーネットワークの構築、支援ポータルサイトの立ち上げ、行政支援メニューの具体化を進め、まちなかの遊休不動産を地域内経済の結節点として、まちなか雇用者増につなげる。

「わ かるまい」 雑穀の桃源郷づくりプロジェクト(岩手県軽米町)

ヤマセの影響で稲作に頼れず雑穀を栽培してきた軽米町において、健康志向により雑穀が脚光を浴びている首都圏を対象としたマーケティングを実施。併せて学校給食への利用促進等による雑穀文化の維持伝承、雑穀の花による景観整備等、条件不利地の克服を総合的に推進する。



粟(あわ)



稗(ひえ)



アマランサスの花

平成20年度の主な取組

- ① 雑穀宣伝大使、交流推進PR、雑穀メニューの試作等、首都圏を対象とした雑穀マーケティングの実施。
- ② 雑穀活用調理講習会、講演会、食の祭典の開催、学校給食への利用促進等を図り、地域の食文化の維持伝承、付加価値化の推進。
- ③ 雑穀の花による美しい景観づくり、農園栽培者の研修等の取組を実施。

平成21年度以降の展開

地域の食文化の維持伝承、安全・安心な農産物の生産、美しい景観づくり、都市との交流事業の推進などの発展充実により、雑穀生産・販売・交流人口の拡大を図り、雑穀の桃源郷を目指す。

「浄法寺漆」による地域再生プロジェクト ～国産漆最大の産地が挑む元気再生～（岩手県二戸市）

上質ではあるが、知名度の低い「浄法寺漆」のブランド力強化・確立を図るため、文化財建造物所有者・料亭・工芸家等を対象とした情報発信・営業活動等による販路拡大を進めるとともに、漆の原木調査・漆掻き人材育成により、ブランドを支える安定的な供給体制を確立する。



漆原木



浄法寺漆



漆掻き(枝掻き)



浄法寺漆を活用した文化財修復

平成20年度の主な取組

- ① 文化財建造物所有者や料亭等をターゲットにして販路拡大を目指すための展示会・マーケティング調査等の実施。
- ② 計画的な植林の推進と保育のため、漆原木の分布状況の調査や市民参加型の植樹祭の開催。
- ③ 後継者の育成、定住促進を図るため、漆関連産業就労プログラムを策定。

平成21年度以降の展開

漆の森保全活動に向けた基金の造成や定住促進体制の整備に加え、国内外への情報発信等による新たな観光ルートの開発等、生産量の増加と販路拡大による雇用の確保、「漆の里」としての交流人口の拡大を実現する。

奇跡の海「三陸」浜の町再生プロジェクト(岩手県大船渡市、陸前高田市、住田町)

「生産者が漁の現場をライブ映像で配信し、消費者がそれを見て注文する」双方をダイレクトに結ぶ独自のシステムを構築し、新規顧客獲得と生産者の意識改革を図る。併せて産地交流型グリーンツーリズムにも発展させる等、顧客と生産地の距離を縮める取組みを徹底する。



定置網体験・漁家ホームステイ等に発展



ライブ映像の完成イメージ



仙台のデパ地下でデモンストレーション

平成20年度の主な取組

- ① 浜の今をライブ映像の配信によりリアルに伝え、産地映像を確認して買えるという受発注体制の確立により、強烈に鮮度アピールを行う。
- ② 100万都市仙台をマーケットに生産者、後継者、水産大学生を派遣して、新しい研修型の売り場を設け顧客開拓と関係づくりを実施。
- ③ 定置網体験や漁家ホームステイ等、三陸の浜全体が連携して、「学び・体験・美食」の旅を提供し、顧客と生産地の距離を更に縮める。

平成21年度以降の展開

魚だけ売る産業から魚を起爆剤にした地域総合産業への脱却を図り、食産業、観光産業など関連した産業を育成する基盤づくりを地域の行政・大学等と連携して進めていく。

「東北圏地域づくりコンソーシアム」社会実験プロジェクト(宮城県登米市他)

著しい高齢化や過疎化等コミュニティ崩壊の危機にある集落を抱える市町村、大学、NPO等が連携して、地域コミュニティ再生のための人材育成・地域づくり計画への支援等とともに、これまでにない協同支援体制(コンソーシアム)の形成を目指す。



平成20年4月に
統合した小学校
(登米市内)



自治会主催でまちづくりを語る
(最上町内)

平成20年度の主な取組

- ① 小学校の統廃合が進む宮城県登米市と過疎化・高齢化の著しい山形県最上町において、市民プランナー養成講座、地域づくりに必要な技術等を習得するための研修や、市民が創る地域づくり計画を策定。
- ② 東北各地の市町村・NPO・大学等が連携し、対話集会を重ねた上で、コミュニティ支援のあり方、コミュニティ再生活動支援の基盤をなす協同体制(コンソーシアム)の可能性について検討。

平成21年度以降の展開

東北7県を対象にした実践的な支援活動に拡大するとともに、更なる大学・研究機関・自治体・企業・NPO等、コンソーシアムへの参加拡大と、ファンドの創設を含むコンソーシアムの運営基盤の強化を行う。

自然と都市が共生する学都仙台再編プログラム(宮城県仙台市(青葉区))

東北大学のキャンパス再編を核として、自然と共生する学都仙台の新たな都市像を創造・実現するため、産官学NPOの協働組織を構築、東北大学キャンパスを地域に開かれた資源として活用し、青葉山キャンパス一帯の観光客の増加を図る。



青葉山キャンパス
完成イメージ

平成20年度の主な取組

- ① キャンパス内の植物園など複数の観光ルートの設定やツーリズムマップの製作、情報発信ツール・インフォメーションセンターの設置、環境共生技術を活用したエコバスの運行実験により観光客を増加。
- ② 協働組織構築に向け、杜の都のまちづくりを考える市民に開かれた拠点とした「まちづくりカフェ」の設置・開設、ワークショップの開催、その成果イメージを可視化したシンポジウム等を開催。

平成21年度以降の展開

産官学NPO等の協働組織を設立し、具体的な事業の導入に向けた気運の醸成、関係機関の調整を図り、産学NPOが主体で、官がサポートする新たなプロジェクトの連鎖を生み出していくほか、学都仙台再編アクションプログラムの策定・実施やキャンパスツーリズムの拡充等を行うことで、自然と共生する新たな都市像の実現及び観光振興を促進する。

産業遺産・環境産業観光プロジェクト(秋田県鹿角市、小坂町、大館市)

かつての鉱山関連施設などの産業遺産と環境リサイクル産業が集積した秋田県北部地区において、地域の環境関連事業者・観光事業者・行政が連携して、環境調和型社会について学ぶ教育旅行プログラムを開発、自然・産業遺産・環境産業を組み合わせた新たな観光モデル・教育旅行のメッカとして全国に発信する。



リサイクル関連施設



小坂鉱山事務所



十和田湖

平成20年度の主な取組

- ① 環境リサイクル施設等の視察受入窓口・関連企業との連絡調整機能を果たすエコタウンセンター(仮称)の整備とともに、案内人養成、説明マニュアル等を作成。
- ② 教育旅行のための体験学習プログラムの開発と、テキスト等に利用可能な副読本等の作成、近代化産業遺産を活用したイベントやモニターツアー等の実施。

平成21年度以降の展開

視察・見学者の本格的受入とそのための連携体制の確立、外国人向けPR等を通じて、環境産業観光の先進地としての地位を確立する。

東北芸術工科大学との連携による地域と観光産業活性化プロジェクト (山形県大蔵村肘折地区)

古くからの湯治場である肘折温泉において、東北芸術工科大学との連携によるアートを活用した“新たな魅力創出”と、周辺の棚田風景をめぐるバスの導入や肘折こけしの後継者養成等、“今ある地域資源の有効活用”の両面による湯治場の再生スタイルを構築する。



四ヶ村の棚田



肘折こけし



肘折温泉街にアート

平成20年度の主な取組

- ① 復刻版絵葉書等の開発・販売や、旧郵便局舎へ美術作品を展示するなど、東北芸術工科大学と連携を図り、温泉街にアートを導入し、湯治場に新たな魅力を付加。
- ② 棚田や沼巡り等、観光資源を結びつけた着地型旅行商品を開発するための二次交通システムの実験や、伝統工芸の「肘折こけし」工の養成講座の実施による後継者育成。

平成21年度以降の展開

作品の備蓄と展示場所の充実を図り、肘折商品を増やすことにより、オリジナル土産の販売の場、若者の雇用の場を創出するとともに、伝統工芸「肘折こけし」工人の後継者の確立と「観光資源」を結ぶ二次交通システムの本格的な運行等により、意識の高揚、温泉街宿泊人数の増加など、地域と観光産業の活性化を図る。

つるおか森のキャンパス元気プロジェクト (山形県鶴岡市朝日地区、鶴岡市温海地区及び鶴岡市中心市街地など)

これまで出荷を諦めていた山間地の高齢者農家等の出荷を助ける「森の産直カー」を新たに導入、中心市街地の空店舗において販売することで、中山間地域と中心市街地の交流拡大と地域内経済の新しい循環システムの確立を目指す。



森の産直カー(イメージ)



採れたて野菜などを市街地で販売

平成20年度の主な取組

- ① 朝採れた山菜やきのこ、在来野菜などを産直カーで集荷し市街地の庭先で販売、農林産物販売や空き店舗を活用した産直「山王(商店街)の食鮮市」等の社会実験の実施。
- ② 羽黒山や六十里越街道などの歴史的資源を連結させた交流アクションプログラム開発や、プロモーションムービーの製作等による都市と地方の交流拡大。

平成21年度以降の展開

産直カー会員数の拡大と出荷体制の強化、生産拡大を図り、新たな加工品を活用した中心商店街イベントでの連携や大都市圏での販売キャンペーンへと展開し、森の産直カーの仕組みを完成させ、首都圏等の小中学生をはじめ幅広い世代を対象にしたプログラムの展開等により、交流人口の増加とまちのにぎわいを創出する。

アスリートヴィレッジと市民活動の融合による滞在型快適温泉地環境プロジェクト (山形県上山市)

準高所トレーニング地である標高1000mのアスリートビレッジと、近接する平地の上山温泉を効果的に連携させる歩行コースの設計とともに、医科学的検証を加えることで、他の地域にない本格的な地形療法のできる「上山型温泉クアオルト(保養・療養地)」を新たに構築する。



標高1,000m



平地の温泉地



アスリートヴィレッジ施設
ZAOたいらぐら



かみのやま温泉

平成20年度の主な取組

- ① 標高差を活用した歩行コースの設定に加え、先進地ドイツの地形療法の権威による調査・指導と実施講習、温泉入浴アドバイザー養成研修等を実施。
- ② アスリート向けメニューの開発や、地元の新鮮な食材を提供するシステムの確立、市民活動融合ワークショップによる受け入れ体制の構築。

平成21年度以降の展開

トップアスリートを対象としたモニター実施や、地形療法のモニターツアー等による内外への情報発信、地元食材を活用した市民による宿泊客との交流サービス等により、新たな温泉保養地としての位置づけの確立と、アスリートビレッジ利用者及び上山温泉宿泊客の増加を促進する。

日本一の蔵再生によるまちおこし(福島県喜多方市)

合併後の新喜多方市に共通する地域資源として、あらためて「蔵」を再認識し、市内中心部から農村部に至るまで4200ある「蔵」をキーワードにした取組みを、産・官・学、そして地域の住民団体等が総出で行い、合併後の地域一体となったまちづくり・観光交流人口の拡大へ結びつける。



平成20年度の主な取組

- ① 3,000棟を目標に、存在する蔵の実態把握調査、文化財登録の促進、蔵の巡回写真展・シンポジウム等により蔵文化を学び、人づくりを推進。
- ② 農村部の蔵を活用したグリーンツーリズムや農村部も含めた観光新ルートの開発等、市街地の蔵と周辺部の蔵をつなぐ仕組みの検討。

平成21年度以降の展開

蔵ガイドブック、蔵アドバイザー等による観光客の受入体制の確立、新観光ルートやレトロバスの試験運行の実施による市内中心部と農村部の観光交流人口の拡大等、「蔵」をテーマとした「豊かで元気な農山村と活力のある生活・観光都市」を実現する。

岳温泉日本一の健康保養温泉地創造事業(福島県二本松市岳温泉)

安達太良山と岳温泉という地域資源に、ウォーキングと食を組み合わせた体験プログラムの開発や科学的データの収集、近隣の医療施設との連携による人間ドックの受け入れ等により、健康保養温泉地構想の標準モデルを構築する。



岳の全景



パワーウォーキング講習



岳温泉

平成20年度の主な取組

- ① ドイツ生まれのパワーウォーキングを活用したプログラムの開発、旅館料理のカロリー表示化や温泉入浴指導員等を兼ね備えた、モニターツアーの実施。
- ② 企業向けメタボ対策プログラムの構築、企業向けプロモーション活動、近隣の大学との連携による人間ドックの受け入れをセットにしたツアー等を実施。

平成21年度以降の展開

地形療法としての科学的データの蓄積に加え、首都圏の企業の健保組合等をターゲットにしたメタボ対策プログラムの構築・プロモーション活動等により、健康保養温泉地構想の標準モデルを完成させ、日本一の健康保養温泉地を実現する。

『健康万歳！！田舎・暮らしの知恵袋と健康ミネラル野菜・ICTの共鳴』 (福島県西会津町)

かつての「短命な町」から、土を改良して栽培した「ミネラル野菜」によって町民の平均寿命の伸長に成功した経験を基に、ミネラル野菜を使った総菜等の新特産品の開発、ICTを活用した集出荷体制の構築等により、健康野菜「西会津ミネラル野菜」のブランド化・全国展開を目指す。



ミネラル野菜

平成20年度の主な取組

- ① 「ミネラル野菜」に先人の知恵を融合させた総菜・健康食品、「ミネラル野菜」をふんだんに用いた味噌ラーメン等の開発、全国展開を目指したビジネスモデルの検討。
- ② 高齢者も使いやすいWebサイトの作成等により安定した集出荷体制を構築。ブランドイメージを確立するためのPR等を併せて実施。

平成21年度以降の展開

地元の資源「ミネラル野菜」を活かした総菜・健康食品・西会津味噌ラーメンの全国ブランド化の確立、健康ノウハウの域外輸出を実施等することで、全国的な健康促進・長寿スタイルのモデル地域を目指す。

街道を活かした桑折のまちづくり実践調査 ～歩いて楽しむために～(福島県桑折町)

羽州街道と奥州街道の追分、日本最古の三元自転車の発祥地といった町固有の地域資源を最大限活かし、バイパス整備後の旧道に明治期の賑わいを取り戻すため、まちなかコミュニティスペースや街道を軸にした周辺との交流等を通じて、“歩いて楽しめる町”を目指す。



現存日本最古
「三元自転車」

奥州街道



現在



明治期

賑わいの復活

平成20年度の主な取組

- ① 運搬が手軽な軽トラックによる「桑折宿軽トラ市」の実証実験、「三元自転車」の復元調査、空き店舗を活用した「カフェ図書」の実証実験により、まちなかコミュニティスペースを形成。
- ② 街道沿線の市町村による「羽州街道サミット」の開催等による周辺市町との交流、お気に入りスポットコンテスト等により、地域のアイデンティティを確立。

平成21年度以降の展開

復元三元自転車によるペロタクシーの社会実験、カフェ図書の本格営業開始等により、桑折御蔵の魅力を向上させ、来場者を増やし、住民全体の「歩いて楽しめる賑わいのあるまちづくり」を実現する。

地域資源と現有する社会資本(外国人力)を活かしたまちづくり (新潟県南魚沼市旧大和町地域(魚野川・水無川流域)の一部)

IT関連の外国人留学生を多く抱える国際大学の存在を地域特性として活かすため、足の便や、買い物・生活情報・医療相談等のコミュニケーション面でサポートする取り組みを実施することで、外国人力を活かした商店街の活性化を実施。



旧大和町地域



JR浦佐駅



国際大学

平成20年度の主な取組

- ① 国際大学から地元商店街間の主要生活拠点をコミュニティバスで巡回し、アンケート等を通じてニーズを把握。
- ② 商店街の空き店舗を利用して「ふれあいセンター」を開設し、観光・生活・地域情報等の総合的なガイドの育成や商店主らの英語勉強会等を実施。

平成21年度以降の展開

継続的なコミュニティバスの運行、外国人にとって住みやすい地域づくりを継続するとともに、国際大学OBらを対象としたIT関連企業誘致等も行うことで、“外国人力”を活かした雇用創出を目指す。

里山再生よりみち大学

(新潟県小千谷市上片貝地区・川口町田麦山地区・川口町木沢地区)

中越地震のあった集落において、地域内外の人たちの交流機会を創出し、里山の環境や生活の知恵を学ぶ「里山よりみち大学」を開設することで、観光宿泊者(農家民泊)を増加させ、集落の身の丈に合った集落活性化を図る。



上越線の線路が見えないほどの被害があった小千谷ー川口間

平成20年度の主な取組

- ① ワークショップ形式により、年間カリキュラム計画等を議論し、「よりみち大学」の運営システムや、農地と一部民家を使った少しお洒落な田舎暮らし参加システムを検討。
- ② 運営計画に基づいた「よりみち大学」受講者・参加者誘致活動、モニター募集の実施や、年2回、1泊2日で民泊利用のモデル講座を実行し民泊者を増加。

平成21年度以降の展開

よりみち大学運営システムや里山の暮らし体験システムの充実を図り、コース数の増加や連携協力を拡大することでモデル講座を充実させ、継続的に事業を展開し体験観光者や2地域居住者の増加促進を図るとともに、廃校施設など地方自治体等と連携しながら「持続可能な里山づくり」を目指す。

いつまでも住み続ける法末拡大コミュニティ展開プロジェクト (震災復興から元気再生へ)(新潟県長岡市小国町法末集落地域)

中越地震で被災した地域の高齢化率が67%、豪雪地帯、無医村という集落において、住宅カルテづくりやボランティア除雪支援体制の構築、一次救急救命研修等、安全・安心して住み続けていくための復興支援・集落再生モデルを実現。



屋根雪の除雪

平成20年度の主な取組

- ① アンケート、戸別訪問等により住宅カルテを作成、住まいの心配事などに専門家が相談対応、IT環境を活用した集落情報の発信・共有化。
- ② 様々なレベルに対応した屋根雪の除雪訓練の実施や、訓練を重ねた集落関係者とボランティアによる次世代育成のための除雪支援者名簿の作成配備。

平成21年度以降の展開

各事業に関わった団体等を中心とした「法末元気再生協議会」を組織化し、民家の修復実験や雪掘り支援隊を結成して事業を拡充させるとともに、健康管理システムの開発整備や、ITを活用した継続・定期的な情報発信により連帯感等を充実させることで、新しい集落再生モデルを実現する。